別紙様式（Ｂ４横型）

平成２９年度　学校自己評価表　（計画段階）

福岡県立香住丘高等学校長　印

３８

学　校　運　営　計　画（４月）			評価
学校運営方針	人間教育に主眼を置き、将来、国家・社会に貢献できる人材を育成する。		
昨年度の成果と課題	年度重点目標	具体的目標	
学校創立以来本校は、高い進学実績や、先進的英語教育の研究開発等多くの実績を培い、地域の信頼を築いてきた。 平成２６年度に学校創立３０周年を迎えたことを機に、「新設校から伝統校への定着」を目標に掲げ、ワンランク上の学校づくりを展開することが求められると考える。 生徒の主体的活動のさらなる推進と教育力向上による教育活動全体の質的向上を図ることが必要である。	**１　教育活動の充実** 校訓を拠としてあらゆる教育活動において「社会を生き抜く力」を培い、心身ともに逞しく、高い知性と豊かな人間性を備えた生徒を育成する。この目的を達成するために日々充実した教育活動を展開し、自己実現と社会貢献を目指して、生徒一人一人の進路目標を達成させる。また、高大接続システム改革や次期学習指導要領をはじめとする教育改革の動向を注視しながら、新しい時代にふさわしい教育内容・教育方法を総力をあげて探究し、創造する。 **２　特色ある学科・コース** 本県高等学校を牽引する「英語科」を軸とした英語教育や「普通科数理コミュニケーションコース」を軸としたＳＳＨ研究開発による理数教育を両輪として教師力と組織力を高めることにより、学校全体の普通科教育の充実発展をめざす。 **３　「学校力」の向上** 地域とさらなる連携を図り、地域に貢献する開かれた教育活動や教育成果の地域への積極的な情報発信を通して、地域に信頼され、期待される「新たな伝統校」をめざす。。	①全教科における授業改善と全学科・コースでの探求型教科・科目の実践 ②特色ある学科・コースを軸とした学校の教育力向上 ③礼節を重んじ、感性とリーダーシップを育む生徒指導の実践 ④高い意識での進路実現 ⑤人権教育の推進 ⑥保護者・同窓会・地域との連携の強化と広報活動の推進	

評価項目		具体的目標	具体的方策	評価（３月）			次年度の主な課題
特色ある学校づくりのための全体教育目標 『道』 『学』 『志』	『道』	１　礼儀を重んじ、感性に富んだ心豊かな人間の育成	①人格の陶冶を求め、徹底した礼儀と躾の指導を行う。				
			②基本的生活習慣を確立させ、校則を遵守させる。				
			③国際的視点に立った文化や歴史の学習を推進する。				
		２　伝統や文化を尊重し、国際理解・異文化理解の促進	①生徒の自主性を育む文化的・体育的行事を推進する。				
			②校内清掃活動の徹底と地域への奉仕活動を推進する。				
	『学』	１　基礎基本を踏まえ、充実した授業内容による勉学意欲の高揚	①新入生に対する高校生活導入指導の充実を図る。				
			②授業・課外・土曜ｾﾐﾅｰで基礎力と応用力を強化する。				
		２　個性を生かす教育や進路に応じた的確な指導による、向上心の育成と学習習慣の確立	①国際理解教育を学校全体で推進する。				
			②充実した進路指導と自己実現への指導を徹底する。				
	『志』	１　規律ある生活の中で、責任感や連帯感を育て強い意志力と自律心・自己教育力の育成	①様々な体験を通して、社会に貢献できる人材を育てる。				
			②集団行動の意義を理解させ、積極的に推進する。				
		２　部活動等体育的文化的行事に積極的に取り組み、強靭な身体と不屈の精神の育成	①文武両道を推進し、部活動への積極的な参加を促す。				
			②地域清掃等、ボランティア活動を積極的に推進する。				
教育課程		１　ＳＳＨ事業を全学科・コースへ広げるための教育課程の検討	①ＳＳ総合科学探究の授業を充実させるため、教科開設の時期（学年）や教科・科目の継続性・系統性を考えた教育課程を研究する。				
			②生徒による授業評価のアンケート等を通して、授業の形態や指導方法、指導に当たる教師の人数等を再検討し、教育課程の改善を行う。				
		２　新学習指導要領へのスムーズな移行を念頭に、教育課程について、積極的で柔軟な研究の推進	①「新テスト」導入に対応する教育課程の検討をＳＳＨ事業と関連付けながら推進する。				
			②本校のグランドデザインに基づいたカリキュラムを編成し、教育課程検討委員会を中心とした、より特色のある教育課程づくりに努める。				
教科指導		１　全職員で授業改善に取り組み、生徒の対話的で深い学びへの支援	①授業改善プロジェクトチームを中心として、対話的な深い学びを研究し、個々の教師の授業改善へと反映させる。				
			②教科ごとに複数回の研究授業を実施する事で、教科指導力の向上を目指す。また、教科研修会を実施し、教科内の教員相互の連携を図る。				
		２　生徒の進路希望に応じた質の高い授業を実施するための、教員個々の指導力向上	①日常の授業や生徒の授業評価等を基に生徒のニーズに応じた授業の在り方を把握し、授業内容の精選・充実を図る。				
			②大学入試等の進学情報を注視し、進路情報セミナー等へ多くの教師が参加できるような体制を研修図書課と連携してすすめる。				
		３　深い学び繋がる授業の実施を目指して、教科を越えた連携を推進し、学校教育活動全体の拡充	①教科を越えた授業参観の実施を通して教員相互の研修を行う。				
			②イマージョン教育を積極的に導入し、昨年以上の回数の実施をめざす。				

ＳＳＨ研究開発	１　全教科・科目における主体的・協働的な学びを重視した授業と評価の改善	①生徒の「主体的・対話的な深い学び」の実現を目指した授業改善をすべての職員で推進する。				
		②全教科・科目における主体的・協働的な学びを重視した学習評価の研究・開発及び実践を行う。				
	２　全教科・コースで実施する探究型教科・科目の実践と能力評価法の一体開発	①学校設定科目「ＳＳ科学探究」のさらなる充実を図る。				
		②学校設定科目「ＳＳ総合科学探究」の研究・開発及び実践を行う。				
	３　高度な科学研究を推進する科学技術人材の育成プログラムの開発	①大学及び研究機関等と連携し、「環境理学講座」「先端科学研究講座」「先端科学研修」等を実施する。				
		②科学コンテストや学会ジュニアセッション等への参加生徒数と入賞者数を増やす。				
		③生徒の課題研究発表会等での英語による研究発表の推進を図る。				
	４　ＳＳＨ事業成果に関する広報活動による一層の事業充実	①学校行事を活用したＳＳＨ活動の広報に努める。				
		②保護者や地域との連携を深める生徒研究発表会や研修報告会の実施や「ＳＳＨ　Ｎｅｗｓ」の発行に努める。				
		③「ＳＳＨ研究開発報告書」「生徒課題論文集」等の成果物の作成と配布を行う。				
生徒指導	１　礼節を重んじ品格ある生徒の育成	①爽やかな挨拶・端正な服装・時間の厳守の３点を徹底する。				
		②貴重品の管理・荷物の整理・教室美化に努める。				
	２　逞しく、リーダーシップを発揮できる生徒の育成	①部活動の活性化推進。				
		②生徒が主体的に運営する学校行事の実践。				
	３　保護者・地域との連携の強化	①行事毎にタイムリーな情報発信を実践し、ＨＰの更新を徹底する。				
		②ＰＴＡ健全育成委員会と年間５回以上の会合を実施し、生徒の安心・安全に努める。				
保健・安全指導	１　心身における健康の保持・増進	①各種検診活動を円滑に行い、治療勧告や疾病予防に役立てる。				
		②スクールカウンセリングの回数を年１５回から２０回に増やし柔軟かつ丁寧な対応を図る。				
	２　清掃における全職員による一斉指導とゴミの分別回収の徹底	①清掃時間のアナウンス・音楽放送を継続し、他の業務を一時停止して、清掃活動を確実に行う全校一斉の取組みを行う。				
		②資源再生及びゴミ処理の方法を理解させ、ゴミの分別減量化（昨年度比 ５ %減）の徹底を図る。				
教育振興 企画庶務	１　キャリア教育の推進	①生徒達に有効、且つタイムリーな進路事業（現役学生の招聘や各種企業で活躍する卒業生の招聘）を企画する。				
	２　ＰＴＡ・同窓会との連携強化	①役員会や各事業をとおして連携を密にし、事業内容が明確になるよう工夫する。				
		②各事業が円滑に遂行されるように他の分掌との連携を図る。				
	３　行事の円滑化	①校内外の様々な行事が計画的に実行できるよう、的確な文書作りを行う。				
進路指導	１　職業観の寛容と進路選択力の育成	①進路講演会、社会人出前講座等の進路行事の充実を図る。				
		②ホームルーム活動やＳＳ科学探究・ＳＳ総合科学探究の時間を用いて、学年に応じたキャリア教育を計画的に推進し、さらなる充実を図る。				
	２　進路達成のための学力養成	①朝課外の出席率を向上させ、授業の充実を図る。				
		②放課後課外・長期休業課外・土曜セミナーの充実を図る。				
	３　教師の進学指導力の向上	①適切な進路情報を発信し、情報の共有に努める。				
		②実力考査の作問や進路検討会を通して、進学指導力の向上を図る。				
広　報	１　積極的な広報活動の推進	①中学生やその保護者が本校について知りたい内容を情報収集し、中学校や塾を通じてその情報について発信する。				
	２　本校の魅力の伝播	②本校生徒を通して、中学生やその保護者に本校の魅力を積極的に伝える。				
英語学科	１　英語科の特色ある行事と授業を生かした国際理解への関心や向上心の醸成	①福岡市や他団体と連携して海外からの高校生受け入れを年間２～３回実施する。				
		②英語合宿や英語劇により学科内の異学年間の交流を推進する。				
		③ディベート大会や外部大会に積極的に参加し、熱意と意欲ある高校生との交流を推進する。				
	２　英語専門科目の指導の共有を通じた生徒の学習意欲と学力の向上	①英検・ＴＯＥＩＣ・ＧＴＥＣ・ＴＥＡＰの資格取得合格を目指す。				
		②スピーチ・暗唱・ディベート・エッセイの大会に積極的に参加し入賞を目指す。				
		③東京外語大学等の難関大学に進学した卒業生と情報交換する。				
	３　英語科の広報活動の充実	①オープンスクールや中学校出前授業をＡＬＴや英語学科生徒を交えて、充実した広報活動を展開する。				
		②ホームページに行事や季節ごとの情報を随時アップデートしていく。				

数理 コミュニケーション	１　コース独自の行事の充実と広報活動の推進	①生徒の「探究する力」「伝え合う力」を育成できる研修を設定する。				
		②コース独自の大学出前講義（年間２回実施）に英語による講義を取り入れる。				
		③生徒のコースに対する帰属意識を高める。				
		④ＳＳＨ推進課、広報課及び学校ＨＰ管理担当者と連携して、校内外への広報活動を推進する。				
	２　進路実現へのサポート体制の充実と進路実績の向上	①コース独自の行事等を通して進路を強く意識させ、第１学年の１月には進路目標（大学・学部・学科）を確立させる。				
		②「SS 科学探究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」を通して「探究する力」を育成し、理系科目の学力向上を目指す。				
		③数学偏差値６０（クラス平均）を目指す。進路実績は九州大学等の難関大学１０名以上、国公立大学６０％以上の合格を目指す。				
		④第３学年の前期までに、英検２級取得１０名以上、準２級取得３０名以上を目指す。				
研修・図書	１　全教科における授業改善の推進	①各教科月１回の教科研修を実施する。				
		②教育のＩＣＴ化を推進する。				
		③ニーズに応じた校内研修を計画的に実施する。				
	２　学校図書館活用の推進	①生徒及び教員の図書館利用の増加を図る。				
		②年間貸出数の目標を２０００冊とする。				
		③探究型教科・科目の学習に対応できる図書館の整備を行う。				
情報化推進	１　教育活動に関わる情報の積極的発信	①ホームページを定期的に更新する。				
		② 39mail を積極的に活用し、有効な情報提供に努める。				
	２　校内ネットワークの管理及び情報化の推進	①情報セキュリテイー及びＬＡＮ並びにネットワークの管理を徹底する。				
		②ＩＣＴをさらに活用した「解り易い授業」を推進する。				
第１学年	１　体調管理を意識し、健康管理に努めることで、欠席をしない意識と生活リズムの確立（１カ年皆勤２５０名以上・３カ年皆勤１８０名以上）	①遅刻、欠席への対応・指導を細かく丁寧に行う。				
		②保健課と協力し、心身ともに健康で強靭な体づくりを行う。				
	２　予習・復習の重要性を認識させ、家庭学習の習慣化（１日３時間の家庭学習時間の確保）	①「生活と学習の記録」（学習日誌）を有効的に活用し、学習習慣を確立させる。教科内での協議を充実させ、教員間の連携を密にし、意思疎通を図った上で指導力を向上させ、生徒の能力の伸長を図る。				
		②教科間での調整を図り、実のある課題、家庭学習を行わせる。				
	３　人間力の育成	①日々の学校生活を通して、「規範意識」「他者を尊重し互いに高め合う力」を養成する。				
		②学校行事等を通して、「コミュニケーションスキル」「リーダーシップ」を養成する。				
第２学年	１　自らを律することができる生徒を育成するとともに、逞しさの中に思いやりを持った生徒の育成	①教員間の情報交換や、生徒指導課・保健課との連携を強化し、生徒の実態把握に努め適切な指導を行う。、				
		②教員から積極的に生徒に声をかけ、日常の挨拶等の重要性を理解させるとともに、信頼関係を構築する。				
	２　自ら学ぶ態度の育成、さらに、学力を増進させ、主体的に将来を展望し、明確な進路目標の確立	①授業改善に努め、生徒に主体的に考えさせ、論理的思考力、連携力、表現力等の総合的学力を身に付けさせる。				
		②最新情報の提供や適切な進路目標設定のために、進路説明会等の進路事業を企画・実施する。				
	３　特別活動に積極的に参加する姿勢の確立と、リーダーの育成	①生徒会のメンバーを中心に、生徒ができる学年行事等の運営を生徒に任せる。				
		②過去の卒業生の実績を踏まえ、勉学と部活動の両立できることを理解させ、より高い目標にチャレンジする意欲を引き出す。				

第３学年	１　新しき伝統校である本校の最上級学年として相応しい、気概のある人物の育成	①生活、学習、進路すべてにおいて、香住丘高校の最上級生としての意識向上を図る。				
		②各行事でリーダーとしての責任と自覚を持って行動できるように適宜指導し、学校行事に貢献することで帰属意識を高める。				
	２　生徒・教師ともに一丸となって全力を尽くし、個々の生徒の希望進路実現	①難関大学 60 名以上の受験 30 名以上合格、及び過半数の生徒の現役国公立大学合格を目指す。				
		②類型・習熟を考慮し、クラスや生徒の状況に応じた授業改善を図り、進路実現に必要な学力を育成する。				
	３　教師間の連携をさらに強め、教師相互の協力体制の構築	①各分掌や学年業務を、個々の教師が責任をもって行うとともに、学年団で連絡調整を図りながら、協力して業務を遂行する。				
		②つねに自己研鑽に励むとともに、他教師との協力、情報共有に努め、生徒の進路実現に最善を尽くす。				
人権教育	１　人権意識を高め合う人権学習の創出	①各学年とも、特設授業毎にチームを作り、全員で授業案の作成に取組むように工夫する。				
	２　指導者としての科学的認識と実践力の向上	②積極的に研修に参加し、指導者としての資質向上を図る。				
	３　職員の人権意識の向上	③職員の人権意識を高める手立てとして、人権に関する情報の提示や、人権研修会の告知等を積極的に行う。				